

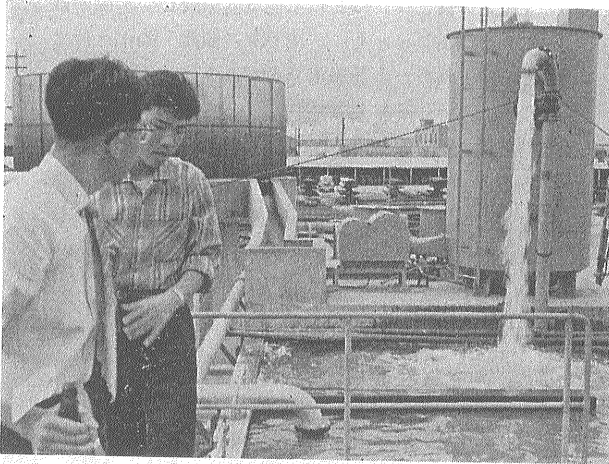
## 用水使用の合理化

用水規模の全体的拡大に伴って 水量の確保が困難になってきている。そこで水の使用合理化が問題になってきた。日本工業用水協会では 現在業種別に合理化の技術的検討 推進方法を研究しているが 要は水とは安からざるものという感覚を みんながもつことに帰せられるように思う。

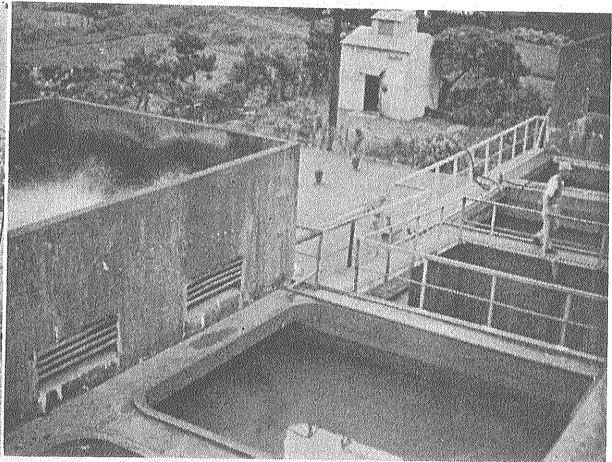
その1. 水の貴重性に対する認識を深めること 「湯

水のごとく使うな」「水は大事だ」と口には簡単にいっても 実際に 水のこととなるとお金をかけたがらない……そうした会社首脳部や経営者のいる限り 真の合理化の途は遠い。 水は安いもの 何とかなるといふ感覚は水使用合理化の最大の敵

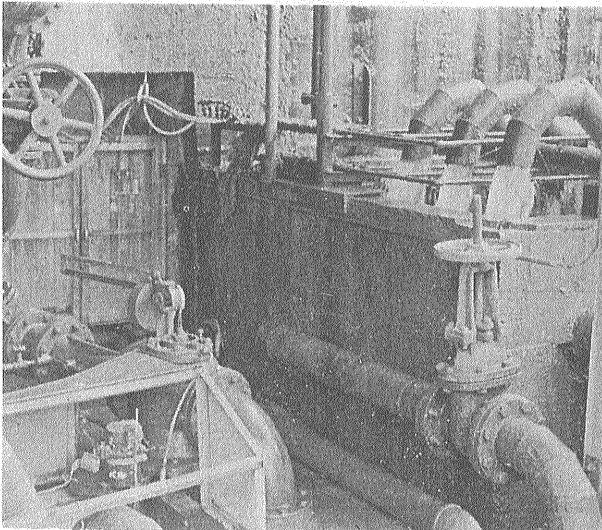
その2. お金をかけるその第1は 水の量・圧・質・温度の計測装置を所要の個所々々につけること 上水道がメーターをつけたら水量に余ゆうができたといった調子で 測定するだけでも効果があらわれる 用水現場の実態がわかれば 自ら節水・合理化の途が開かれる。 要は から手では計れないということ



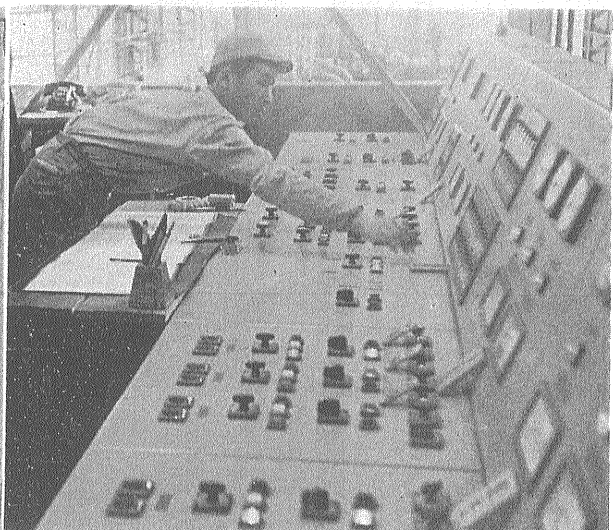
用水の曝気とろ過



用水の曝気とろ過



井戸ごとに流量が測れる



用水管理センターの自動制御盤

その3. 水源を大切にすること 可愛がること いくら合理化を叫んでも水源は 水がでるにまかせて酷使されていたのでは 合理化しても後援がつかない。

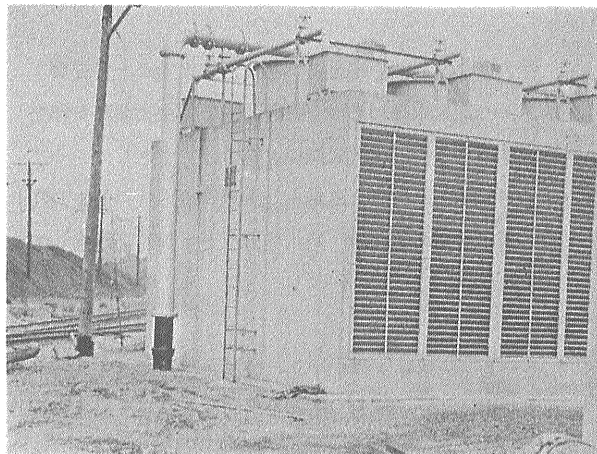
構内の井戸水源はいうまでもないが構外の水源にも環境監視を十分に行なって 水源保全の配置を徹底すること 工場がその敷地外に一步でると きわめて弱いということは合理化をはばむ前提の1つ

その4. 高次使用 循環使用を水質・水温のゆるす限り高度に行なうこと とくに低温と十分な水量とが冷却効率をたかめることは自明の理であるが 要は最少の量の水で しかもその温

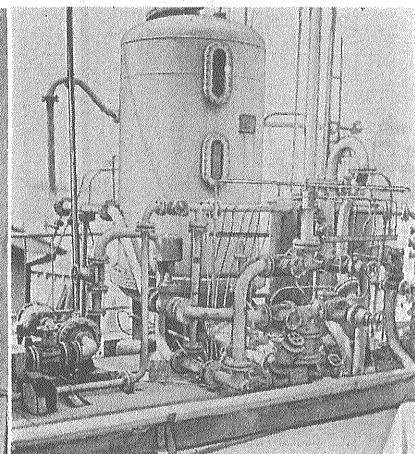
度で冷却しても同じようにものができるという その限界の温度を勇敢に求める熱意が合理化への途を開く、 水質改良装置とともに 冷却塔・地下還流などが 真剣に考えられる余地はなお少なくない

その5. 地下密閉貯水池を上屋の下などを利用して 積極的に施設し 非常事態にそなえるとともに 常時の補給用水をえておく

その6. 水を用いなくて冷却できる場合にはつとめて 新技術を開発し 全体として用水量を減少させる方向にもっていく 海水の利用も当然可能な限り考慮されるべきである



強制通風の冷却塔 (能力 15 m<sup>3</sup>/H)



イオン交換

